

科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

平成24年5月4日現在

機関番号：32689

研究種目：基盤研究（B）

研究期間：2008～2011

課題番号：20402030

研究課題名（和文） 東北アジアにおける金融インフラストラクチャーの歴史的構造

研究課題名（英文） Historical Structure of Financial Infrastructure
in the Northeast Asia

研究代表者

矢後 和彦（YAGO KAZUHIKO）

早稲田大学・商学大学院・教授

研究者番号：30242134

研究成果の概要（和文）：本研究は、19世紀末から20世紀中葉にいたる時期の東北アジアを対象として、当該地域における金融インフラストラクチャーの歴史的構造を経済史の視点からあきらかにした。ここで「東北アジア」とは、ロシア極東、中国東北部、朝鮮半島、日本を中心とする広域をさし、「金融インフラストラクチャー」とは、銀行制度、決済慣行、貨幣流通をはじめ、およそ金融システムが機能するための社会的・経済的諸条件を意味する。本研究は、当該地域の金融史を直接にあつかいながらも、同時に国際金融システムとの連関を追求し、以って東北アジアにおける金融システムの世界史的位置を展望している。

研究成果の概要（英文）：This study aims to examine the financial infrastructure in the Northeast Asia from the late nineteenth century up to the middle of the twentieth century, from the viewpoint of economic history. Geographical order of the “Northeast Asia” in this study includes the Far East Russia, Northeast China, Korea and Japan. The “Financial Infrastructure” means socio-economic conditions under which the financial system functions, such as banking system, clearing customs and currency circulation. The study project focused on financial history of the region in relation to the international monetary system, in order to overview the regional financial system from the worldwide perspectives.

交付決定額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合計
2008年度	1,300,000	390,000	1,690,000
2009年度	1,100,000	330,000	1,430,000
2010年度	700,000	210,000	910,000
2011年度	500,000	150,000	650,000
年度			
総計	3,600,000	1,080,000	4,680,000

研究分野：経済史

科研費の分科・細目：経済史

キーワード：金融史、国際銀行業、東北アジア、露清銀行、露亜銀行、ロシア極東

1. 研究開始当初の背景

研究開始の当初においては、「東北アジア史」「国際金融・銀行史」等、本研究が関わる領域においてそれぞれに相当水準の研究が蓄積されていたが、それらは相互に連関を欠いていた。

東北アジア史研究については北海道大学スラブ研究センターを中心に、原暉之氏、左近幸村氏等が露中貿易史を焦点に活発な研究を推進していた。その成果の一端は研究代表者も執筆に参加した左近幸村編『近代東北アジアの誕生』（北海道大学出版部、2008年）

に集約されている。この研究潮流はいわゆるグローバルヒストリーと交錯しつつ、国際的にも大きなインパクトを与えていた。

他方、国際金融史については、西村閑也氏、鈴木俊夫氏等を中心に国際銀行業史研究が進捗しており、香港上海銀行、横浜正金銀行等の実証研究があらわれていた。これらの研究は Ranald Michie 氏や Youssef Cassis 氏が展開してきた国際銀行業史・国際資本市場史の研究方向とも一致し、国際学会でも注目を集めてきた。

しかし、東北アジア史と国際金融・銀行史をつなぐ研究は内外を通じても現れておらず、ここに研究史上の重大な欠落が生じていた。本研究はこの欠落を埋め、以て東北アジア史研究に経済史・金融史のアプローチを導入することを企図して開始された。

2. 研究の目的

本研究は上述の研究史認識に立って、東北アジアにおける国際銀行史を「金融インフラストラクチャー」という方法的視点を導入しつつ解明することを課題とした。具体的には、東北アジアの広域で営業を展開した露清銀行（1896年創業、1910年改組）および露亜銀行（1910年創業、1926年破綻）について、その経営の実態と背景を一次資料から明らかにすることを目的とした。

なお「東北アジア」とは、ロシア極東、中国東北部、朝鮮半島、日本を中心とする広域をさし、「金融インフラストラクチャー」とは、銀行制度、決済慣行、貨幣流通をはじめ、およそ金融システムが機能するための社会的・経済的諸条件を意味する。

本研究は、当該地域の金融史を直接にあつかいながらも、同時に国際金融システムとの連関を追求し、以て東北アジアにおける金融システムの世界史的位を展望した。

3. 研究の方法

研究の方法としては、第一にバランスシート分析を徹底した。すなわち、研究対象となる銀行のバランスシートをロシアの文書館等で収集し、資産の動向はもとより、預金勘定の内実、収益動向について時系列の分析を行った。所要の資料はモスクワの国立図書館、フランスの経済財政史資料館、日本の外交史料館で獲得された。

第二に銀行の本支店関係に着目し銀行内帳簿資料を基礎に、為替勘定の仕向・被仕向関係を抽出するアプローチを採った。関連資料はサンクトペテルブルクの国立資料館、フランスのクレディ・アグリコル資料室等で確保された。

第三に金融インフラストラクチャーに関わる決済慣行等の実像をあきらかにすべくバランスシート以外の経営資料、外交文書等

を収集・分析した。関連情報は上記の諸文書館のほか、モスクワの経済文書館、また文献資料・統計資料等から得た。

4. 研究成果

(1) 本研究の中核的な対象となる露清銀行（1896年創業、1910年改組）・露亜銀行（1910年創業、1926年破綻）の経営史につき、ロシア現地のアーカイブ所蔵一次資料にもとづく検証をおこなった。

具体的には、銀行内一次資料をもとに銀行の統治構造、決済業務、支店展開、利益処分等を包括的に明らかにした。検証の結果、露清銀行の統治構造は当初は仏・露合弁だったものが次第にロシア側の株主銀行の影響力が強化され、営業の中心も当初の国際業務からロシアの国内業務へと移って行ったことが実証された。

他方で収益の中心は長らく中国における貸付・発券業務に依存していたこと、対外的な決済引受については当初のパリ市場から露亜銀行への改組後はロンドン市場に移行したことが明らかになった。以上の成果は2009年に開催された国際経済史学会議大会にて発表され（下記「学会発表」④）、さらに論文等（「雑誌論文」①、「著書」①）の形で体系化された。

(2) 上記の銀行経営史の背景としてロシア極東と中国東北部を結ぶ貿易決済の問題領域が浮かび上がってきた。そのため2011年2-3月にロシアに出張し、露清銀行の上海支店・漢口支店の資料を獲得した。

この資料を解析した結果、露清銀行の中国方面支店はネットの手形取引高では小額（仕向・被仕向がほぼ均衡）であっても、グロスの取引では巨額の手形決済を担っていたことが判明し、手形の主な振出・宛先はイギリスの一流クリアリング・バンク（Glyn, Mills and Currie 等）およびフランスの預金銀行（Comptoir National d'Escompte de Paris 等）であったことが明らかになった。また手形決済の形式で本支店間の為替決済が行われ、支店収益が本店に還流していたことも解明された。

この系列の研究によりロシア域内に拠点を移した露清銀行・露亜銀行が東北アジアの金融インフラストラクチャーを活用しながら巧みに中国業務の収益を維持していた構造が実証された。

以上の成果は2011年に研究代表者が組織した国際シンポジウム（国際経済史学会議プレコンファランス）で発表された（「学会発表」②）。プレコンファランスでは招待研究者のソロマティナ氏（モスクワ大学准教授）、ヴァレリオ氏（リスボン工科大学教授）等から好意的なコメントを賜った。この成果はまた

2012年7月に南アフリカで開催される本大会で報告される予定であり、本研究課題のテーマのなかでも対外的に最もインパクトのある成果となることが期待される。

(3) 本研究の焦点となる金融インフラストラクチャーについて、交通・通信手段の発展とのかかわりをあらたに検討した。シベリア鉄道・中東鉄道・アゾフアジア鉄道敷設と銀行・金融業務のかかわりが課題となり、露清銀行・露亜銀行の支店展開がこれらの鉄道敷設と密接に関連していたことが明らかになった。

またサマルカンド、ブハラ、キャフタ等、これら鉄道沿線の中央アジア諸都市に展開した露清銀行・露亜銀行支店の資料からは商品取扱業務、再割引業務等の独自の営業実態が明らかになり、当該地域では同行が金融インフラストラクチャーを構築する役割を担っていたことも展望された。

ただし、アゾフアジア鉄道については研究史も乏しく、支店展開との関連は今後の課題として残された。

(4) 上記の露清銀行・露亜銀行のアジアにおける後継となる極東銀行(1922年創業)について、一次資料にもとづく検討を開始した。同行についてはソビエト期の創業という事情があり、研究史上もまったくの空白となっていた。研究代表者はさしあたりモスクワ経済文書館所蔵の未公開貸借対照表の分析を行い、その成果を英文の論文として発表した(「雑誌論文」①)。

極東銀行はロシア革命後に露亜銀行の亡命経営陣がハルビンを拠点に活動してことに対抗して創設され、露亜銀行の清算とともにソビエト・中国間の貿易決済を担う銀行に転化した。いわゆる新経済政策(ネップ)の時期には横浜やサンフランシスコに向けて振り出された手形の引受を付ける等、国際銀行業務にも進出していたがやがて国営貿易銀行へと吸収された。本研究課題でとりあげたネップ期の極東銀行バランスシートがドルで表示されていたこと、東北アジアからインド・北米の広域にわたる物産が取引の対象となっていたことが解明された。同行の業務の詳細については今後の検討課題である。

(5) 東北アジア金融史を世界史的に位置づけるべく20世紀の国際金融システムについて俯瞰する作業を行った。この領域の研究は以下の諸系列にわたる。

①国際決済銀行(BIS)の一次資料にもとづき、1930年の創設から現在にいたる同行の歴史的展開の裡に国際通貨・金融システムの変化とその背景を探求した。その成果は単著および仏語共著書所収論文として刊行され

た(「図書」③④)。

②BIS等の国際機関の政策決定を支えるインフォーマルなネットワークに着目し経済協力開発機構(OECD)の歴史研究に着手した。その成果の一端はイギリス経済史学会のセッション報告として英語で報告された(「学会発表」①)。この主題は2012年7月に南アフリカで開催される国際経済史会議大会で報告される予定である。

③金融インフラストラクチャーの日本における影響および展開という視点からブレトンウッズ体制下の日本銀行の行動を詳細に検証し、フランス銀行と比較的に論じた仏語講演を行った(「学会発表」③)。

以上の諸系列にわたる成果によって、東北アジアにおける金融インフラストラクチャーは銀行経営(露清銀行・露亜銀行・極東銀行)によって利用され(中国業務)、また創出される(中央アジア業務)二面性を持っていたことが総括された。

また、東北アジアにおけるロシア系銀行は一方で帝国拡張の側面(本支店決済)を持ちつつも、他方で国際公共財としての決済システムを提供する(現地割引・貸付業務)役割を果たしていたことが定式化された。

世界史的な展望において金融インフラストラクチャーは、銀行経営はもとより、機関(BIS, OECD等)あるいはネットワークによって操作され、またこれらに影響を与える主体・客体の両面を持つことも展望された。

これらの成果をさらに体系化し、国際金融史をグローバルな世界史的展望のなかで構築することが今後の課題として示されることとなった。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計1件)

① Kazuhiko YAGO, "The Anatomy and Pathology of Empire: Three Balance Sheets of Russian and Soviet Banks", in *Slavic Eurasian Studies no.22 (Comparative Imperiology)*, Slavic Research Center, Hokkaido University, 2010, pp.61-86. 査読無

[学会発表] (計4件)

① Kazuhiko YAGO, "Crisis Management in the International Monetary and Financial System: OECD Working Party 3 in the 1970s" (イギリス経済史学会年次大会 The Economic History Society Annual Conference、口頭セッション報告、オックスフォード大学、2012年3月31日)

② Kazuhiko YAGO, “Shanghai branch activities of the Russo-Chinese Bank (1896-1910)” (国際経済史会議大会 International Economic History Congress、プレコンファランス、口頭セッション報告、湘南国際村センター、2011年7月7日)

③ Kazuhiko YAGO, “Banque du Japon dans le système monétaire international” (フランス銀行シンポジウム Colloque “Les banques centrales à l'échelle du monde”、招待講演、2009年11月27日)

④ Kazuhiko YAGO, “The Russo-Chinese Bank (1896-1910)” (国際経済史会議大会 International Economic History Congress、口頭セッション報告、ユトレヒト大学、2009年8月7日)

〔図書〕(計5件)

① 矢後和彦「露清銀行・インドシナ銀行：1896-1913年」(西村閑也・赤川元章・鈴木俊夫編著『国際銀行とアジア』慶応義塾大学出版会、2012年刊行予定)

② 矢後和彦「フランス」(鈴木俊夫編著『金融の世界史』悠書館、2012年刊行予定)

③ Kazuhiko YAGO, “La BRI et le système monétaire international (1944-1958): la diagonale de Per Jacobsson” , in *L'Economie faite homme, hommage à Alain Plessis*, Olivier Feiertag et Isabelle Lespinet-Moret, dirs., Droz, 2010, pp.165-190.

④ 矢後和彦『国際決済銀行の20世紀』、蒼天社出版、2010年3月、1-289頁+60頁

⑤ 矢後和彦「露亜銀行(1910-1926年)覚書」(左近幸村編著『近代東北アジアの誕生—跨境史の試み—』北海道大学出版会、2008年12月、所収) 163-178頁

6. 研究組織

(1) 研究代表者

矢後 和彦 (YAGO KAZUHIKO)

早稲田大学・商学学術院・教授

研究者番号：30242134